

「環境」
就職・進路
相談会

実施報告書

2016年2月21日(日) 10:30 ~ 17:00

会場:東京都市大学世田谷キャンパス 1号館 13H, 13J 教室

主催:特定非営利活動法人エコ・リーグ

協賛:みんな電力株式会社



ごあいさつ

平素は「環境」就職・進路相談会にご支援を賜りまして誠にありがとうございます。

相談会の開催は今回で21回目を迎えました。このイベントが初めて開催された20年前と比べて、今の時代は「どの企業も環境活動に取り組むことがある程度、当たり前になった時代」と言えます。また、情報を得るツールも日々発達していく中で、多すぎる情報の中から「本当に環境に配慮している企業」を見つけ出すことも、難しくなっています。

そこで今年度は、環境に配慮している企業を見つけ出す術を午前中のシンポジウムで知っていただけるように、例年人気のテーマ「優良環境企業の探し方」を取り扱いました。そして、午後の個別相談会や分科会では、企業だけでなくNPO、NGOや省庁まで、様々な場所での環境との関わり方を、カウンセラーの方々の姿を通して参加者の方に知っていただきました。社会人になってから、自分がどのようにして環境問題と関わっていきたいのか。悩み考える上でのヒントを、このイベントを通じて参加者の方々が得てくださったのなら、これ以上喜ばしいことはありません。

今年度の相談会は、昨年までのエコプロダクツでの開催とは大きく形を変え、1999年以来久しぶりの単独開催となりました。今年度も無事にこのイベントを開催できたことは、学生が環境と仕事を考える機会は今後も必要である、とご支援くださったみんな電力株式会社 大石社長、今回も学生に環境との関わり方を伝えてくださったカウンセラーの皆さま、そして就職後も何らかの形で環境に関わりたいと考えてくださっている参加者の皆様のお陰に他なりません。心より感謝を申し上げます。

単独開催ながら、当日の参加者は100名を超え、アンケートでも沢山の方に有意義な時間を過ごせたとコメントをいただくことができました。環境問題への関心が増していく今後も、学生が環境と仕事について知る機会を変わらず提供していけるよう、エコ・リーガ一同取り組んでまいります。今後とも引き続き、ご支援を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

「環境」就職・進路相談会 2016 実行委員長
永瀬 萌(早稲田大学3年)

報告書 目次

ごあいさつ	2
1. 企画の概要.....	4
2. 午前の部 シンポジウム「優良環境企業を探し当てる」	5
3. 午後の部 個別相談会・分科会	10
A.個別相談会報告	10
B.分科会報告	101
分科会①・②「エコ・ファースト企業に聞く！ 大手企業での環境との関わり方」	121
分科会③「基礎からわかる『環境コンサルタント』」	176
4. アンケート結果等分析	20
A.広報について.....	20
B.事前申込者、参加者分析.....	20
C.参加者の声	エラー! ブックマークが定義されていません。

1. 企画の概要

<本企画の趣旨>

近年、環境問題に対する学生の興味はますます増加し、環境活動を行う学生団体も増加傾向にあります。一方で、そういった学生に対して「環境」を軸に据えた就職情報はまだまだ限られているのが現状です。特に、「環境」に取り組む企業が多くなってきた今、数ある選択肢の中からどの企業が自分の期待する環境問題とのかかわり方をしているのか、選びきれないという困難を抱えている学生を多く見かけます。

本人の希望に沿った環境の進路に進むためにはまず、環境に関する仕事の内容と現実をしっかりと理解することが必要です。そこで本イベントでは、様々な環境の仕事に携わる社会人の方をお招きし、環境の仕事を深く理解する機会を学生へ提供いたします。学生が新たな視点・視野を広げ、就職や進路の選択に役立ててもらうことを目的に、「環境就職」をテーマとした全国最大規模のイベントとして本イベントは開催されています。

※特定非営利活動法人エコ・リーグとは、環境活動を行う全国の青年が運営する団体です。1994年に任意団体として設立されて以来、持続可能な社会の実現を目指して活動しています。2012年にはNPO法人化し、現在では環境活動を行う青年を対象とし、ネットワーク構築や人材育成事業、社会発信事業を行っています。

ホームページ:<http://el.eco-2000.net/>

<企画概要>

【日 時】2016(平成28)年2月21日(日)10:30-17:30

【会 場】東京都市大学世田谷キャンパス 1号館13H, 13J 教室

(東急大井町線「尾山台駅」下車 徒歩12分)

【規 模】「環境」を軸に就職や進路を考える 大学生および第二新卒計109名
社会人カウンセラー30名

2. 午前の部 優良環境企業を探し当てる

文責:千賀 太喜

【企画概要】(参加者数 93名)

環境に配慮している企業に就職したい。環境問題解決を担う企業で働きたい。

「環境」というキーワードを大事にする就活生に、その中で優良な企業とはどういうものかパネルディスカッション形式でご紹介しました。

登壇者には

- ① 環境分野におけるCSRに力をいれている企業の環境部門の方
- ② 環境問題解決を担う企業で働かれている方

を迎え、それぞれの視点における優良企業についての考え方、探し方をわかりやすく話していただきます。

【パネリスト】

みんな電力株式会社 大石 英司氏
大成建設株式会社環境本部 高橋 工氏

【司会・企画担当者】

千賀太喜(早稲田大学3年)

《講演内容》

※講演内容を一部抜粋編集、敬称略

一自己紹介

高橋:

大成建設の高橋です。会社の業務分野として、大きく3つ、建築、土木、そして一部開発があります。私が所属する環境関連業務を行う部署では、事業に関係する土壌汚染等に対応する部門、これから建てる建物周辺の環境配慮の計画を行う部門、LEDほか省エネ設備による効果を計画・提案する部門などありますが、私は、大成建設の環境の取り組みに関する発信や社内の環境活動の推進をする部門に所属しています。

大石:

みんな電力の大石です。皆さん、4月からの電力自由化を知っていますか。電気は元を正せば電源がある。皆さんの意思で4月以降、再生可能エネルギーを重視している会社を選べば、再生可能エネルギーが促進されるし、安い電力は石炭や原子力を使っているの、そちらを選べばそちらが促進されます。皆さんの選択が非常に重要になってくるということです。僕らの電力で特徴的なのは電源を選べる電力会社ということです。野菜などと同じように、顔の見える電力を提供する会社です。今日皆さんにはベンチャーの社長として、また環境問題に携わっている中小企業の立場として、二つの立場からお話しさせて

いただこうと思っています。

千賀:

このパネルディスカッションのターゲットは、多少は環境に優しい企業で働きたいと考えている人、

そして環境問題の解決を仕事にしたいと考えている人その2パターンです。

ここで、ご来場のみなさんにお聞きしたいのですが、就職において多少は環境に優しい企業で働きたいと考えている人はどのくらいいますか(挙手を促す)

環境問題の解決を仕事にしてみたいと考えている人はどのくらいいますか(挙手を促す)

(結果:各半分ずつ手が上がる)

—優良企業とは

高橋:

良い企業とは、俗な言い方をすると基本的に利益を出せる企業だと思います。

そのうえでどれだけ環境に配慮できるか、というのが大切な視点になります。

リーマンショックの時に、儲かっていたらいいという考えの企業が突然倒産しました。これをきっかけに儲けること以外にも重要なこと、例えば、自然環境や人権、労働環境にも配慮できて、戦略的に長期ビジョンをもって事業活動する会社が持続可能な良い会社と捉えられるようになってきました。

大石:

優良企業は人によって定義が違うだろうと

思います。その中で優良企業というのはタイプごとに大きく二つに分かれると思います。独立精神旺盛なタイプか、社会人的素養を身に着けたいタイプかです。社会人としての素養を一から身に着けたい人は社員教育がしっかりしている会社がいいのではないかと思います。一方で社員の自主性を重要視している企業、個性を伸ばそうとしてくれる企業は自分のやりたいことがしっかり決まっている人や気分の浮き沈みのある人には向いていると思います。

—優良環境企業とは

高橋:

魅力的な商品・サービスを提供できる企業であり、それらを通して環境問題を含め、世の中の様々な問題を解決していくことができる企業、社会的な責任のもと、それらに取り組み、社会に貢献できる企業が優良環境企業だと思います。

大石:

電力会社の立場から話をさせていただきます。

COP21 のパリ協定などに沿って合わせた動きをしている会社は海外では多いですが、日本では少ないです。

そういったトピックの中に電源責任という言葉があります。

電源責任を明確にしている会社、例えばアップルは「何年までに再生可能エネルギー100%」という目標を掲げている。電気はすべての産業の原料である。しかし、海外では電源責任に対する関心が高いが、日本では海外程積極的ではない。電源責任を

明確にしている企業が優良環境企業といえると思います。

—優良環境企業の探し方

高橋:

読み取れるものとして、CSR 報告書、サステナビリティレポート、コーポレートレポートを各企業が出しています。財務情報や CSR 情報などをまとめて開示しています。環境報告書では、どれぐらいエネルギーを使っているか、CO2 排出量、環境貢献活動等の開示をしています。そういったものを読み、手掛かりとすることが探し方の一つと言えると思います。

それから、新聞をよく見てください。先ほど話にあった COP21 が話題になった時も多くの情報が載っていました。

また、皆さんにはなじみがないかもしれませんが、優良環境企業のランキングというものが存在して、日経や東洋経済などで出しています。

今日数社参加していますが、エコ・ファースト企業というものもあります。エコ・ファースト制度という環境省主催の取り組みで、企業側から自社の取り組み目標を環境省に認定してもらった企業の事を言います。そういった企業からあたりをつけるのもいいかもしれません。

ちなみに大成建設は、地球温暖化、資源循環、生物多様性の 3 分野についての中長期を含めた目標と取り組みを「エコ・ファーストの約束」として、環境省に認めていただいている形です。

大石:

こちらも二つのタイプに分かれると思って

います。

社会人の基礎から学びたいようなタイプの人は新聞のランキングなどを参考にするといいと思います。そういった企業は社会人経験を積みたい人には向いていると思います。

やまつけのある人には『日本で一番大切にしたい会社』という本をおすすめしたいです。長く続いてほしい企業がずらっと並んでいます。

ここに載っている企業は経営者との距離が近いなという印象があります。

また、金融機関で鎌倉投信というのがあります。彼らが思う本当に良いと思う会社に投資している。彼らに投資してもらうのはある意味ステータスです。彼らはお金を責任もって運用している、こだわりをもった金融機関です。

鎌倉投信には 3 つのポリシーがあります。一つが人材を生かせる会社。

投資先の社員が生き活きしているかということ抜き打ちでチェックしにきたりもします。

二つ目が循環型社会の創造。三つ目が日本の巧みな技術、感動的なサービスを提供している会社。この三つに該当している企業に投資しています。

そして、実際に持続可能な視点から投資したこういった会社は成績が良いです。

—優良環境企業の選び方

高橋:

私は CSR 報告書における、環境部門を担

当しています。

CSR 報告書の見方を説明すると、最初の編集方針でなにをガイドラインにしてこの CSR 報告書を作っているのか知る必要があります。

例えば環境省のガイドラインや、GRI、ISO26000などを参考に行っているのかを確認します。

次に、投資家からの評価ということで SRI インデックスに選ばれているか。CDP という企業の CO2 量についての情報開示評価で優良企業に選ばれているかというのも一つの指標になるかと思えます。

またとても大事なことで、社長のコミットメント、つまり会社を代表する社長が環境の取り組みをしっかりと語っているかもチェックする必要があります。

環境報告書では環境についての方針を持っているか、それを誰の名前で宣言しているのか。社長なのか事業部長なのか。弊社では社長名になっています。

大成建設では低炭素、資源循環、自然共生社会の分野、すべてを持続可能にしていくためには会社として、環境問題の解決に役立つ技術や取り組みが必要であるという考えに基づいて、2020年、2050年といった中長期の環境経営目標を立てています。

また、環境のデータは監査が入るわけではありませぬので、自社の算出過程を第三者認証という形で外部の監査法人を通し保証してもらっています。企業の信頼性といった視点でこういった保証があるかどうか企業を見るうえで一つの目安になるかと思えます。

大石:

中小企業においては、アプローチとしては自分なりに関心の湧いた社長宛に手紙を書くことが早いと思います。中小の社長はけっこう見えています。

人材を大切にしている会社は社員だけではなく、社会全体の人材を大切にしている企業が多いです。なので、選び方として手紙を書いてそのリアクションを見る。リアクションがしっかりしていると信頼できる可能性が高いかなと思います。

社長と話す機会があったときは理論武装しないことが大事です。テンプレートを送られるより、思いが伝わる言葉を選ぶことが大事です。素直な感情をぶつけることが大事です。

私の周りにある社長で大事にしていることが多いのは人材を大切にすることですね。また、社会貢献、環境活動を義務化すると続かないことが多いです。義務ではなく、わくわく、楽しいという感情が大事ですし、皆さんが社長の考え方に共感できるかが大事になってきます。

高橋:

OB、OG 訪問で、担当の人が必ずしも CSR 部門の人であるとは限らないので、CSR について聞いてもわからないことがあります。OB、OG 訪問では大石さんが先ほど言われていたように自分の思いを伝える場にすれば良いと思います。

また、行きたい会社を決めるのは最終的には自分の直感だと思います。企業の取り組んでいることが好きなら絶対続くと思います。大きめの企業に行くときには企業の中でどこか好きなのところを見つけていくのが良いと

思います。

【参加者の声(抜粋)】

- ・中小と大手の2つの視点からの貴重な話が聞けてよかったです。
- ・丁寧な高橋様と大胆な大石様の2方の側面からの説明がわかりやすく興味深かったです。企業を探すときの視点が増えました。
- ・少し硬い感じもりましたが聞きたいことが聞けて良かったです。
- ・大成建設の方とみんな電力の方は働き方や立場が全く異なる方々だったので人選がとてもよかったです。
- ・緑化を行う企業についても知りたかったです。
- ・社会での環境としての役割や環境の大切さがよくわかった。自分を再確認することができた。

【担当者感想】

例年行われていた「優良環境企業の探し方」をより具体化してわかりやすく学生に伝えることを意識してイベント準備を進めてきました。

その結果、多くの参加者に満足していただける結果になったことをうれしく思います。

環境分野におけるCSRに力をいれている企業の環境部門の方と環境問題解決を担う企業で働かれている方との対比を伝えることができたとともに、中小企業と大手企業、社長と社員という立場の違いなど、パネリストの方々の立場の違いからくる考え方の違いなども伝えられ、パネリストの方に恵まれたなと思っています。

(千賀 太喜)



3. 午後の部 個別相談会・分科会

A. 個別相談会報告

文責:胡桃 茅里

【企画概要】

今年例年と異なり大学の施設での開催となり、時期も例年の12月から2月と後ろに倒れました。カウンセラーは、幾度もご参加されている方をはじめ、24名の方々にご協力いただきました。新しい形での開催でしたが、内容は変わらずに、学生の就職進路相談を中心としたお仕事の話から、ライフキャリアの話、カウンセラーの学生時代の話まで多岐にわたっていました。1ターム40分という時間を1人のカウンセラーに対して1~5人程度の学生が集まり、有意義な時間を過ごしていたように思います。

<2016年度参加企業、団体>

みんな電力株式会社様、日産自動車株式会社様、和のエネルギー株式会社様、環境省様、株式会社エステム様、株式会社ウインローダー様、株式会社プレシヤス・タイム様、リマテック・ホールディングス株式会社様、大成建設株式会社 環境本部様 他

【参加者の声(抜粋)】

- ・業務内容がやりたいと思っていることに近かったので、お話ができてよかった。
- ・会社のこと、入社してからの生活、中小企業を選ぶ時のポイントなどを詳しく教えていただいたので良かった。
- ・すごく楽しそうに働いていることがわかり、自分も働いてみたいと思った。
- ・学生一人ひとりの質問に丁寧に答えてくださってとてもうれしかった。
- ・就活のモチベーションの維持方法など、就活に必要なことを学べた。
- ・様々な業界を知り、自分に合ったものに絞ることができた。
- ・大学時代の話から、就職された後の話まで具体的に話して下さって、大変参考になった。

【カウンセラーの声(抜粋)】

- ・学生の方はもちろんのこと、各企業様の事業も知ることができ大変良かった。
 - ・学生さんだけでなく同業界で活躍される企業の皆様との接点を持つて大変有意義なイベントでした。
 - ・「環境」という言葉の意味が広範囲で悩んでいる学生が多かったように思う。
 - ・学部学科、性別学年によって、全く違った視点を持たれているということを知った。
 - ・もっとこういうイベントで視野を広げていただくといいと思った。
- また、学生から多く受けた質問として

- ・カウンセラー自身の就活時の志望動機

- ・具体的な業務内容

- ・研究(専攻)をどう生かせるか

- ・進学か就職かどちらがいいか

以上の項目が、カウンセラーアンケートより見受けられました。

B.分科会報告

分科会①・②

「エコ・ファースト企業に聞く！大手企業での環境との関わり方」

文責:浅井 恵斗

【企画概要】(参加者数合計 37 名)

近年の学生の就職活動においては安定志向が見受けられる、という指摘が目立ちます。在学中環境問題に強く興味を持ち、環境活動をしてきた学生であってもその志向は変わらず、環境活動を事業の中心とはしていない大手企業を志望する傾向が見られます。その上で、大手企業において何らかの形で環境活動に携わり続けることを希望する学生が多いように見受けられます。

こういった現状を踏まえて、エコ・ファースト企業認定を受けた大手企業の方々にお越しいただき、企業としての環境貢献活動の実状、またご自身の配属経緯や実際のお仕事をお話いただきました。学生が大手企業にあつての環境問題との関わり方について、より具体的なイメージを抱けるようになることを目標としました。そして、分科会を通して、「本業で経験を積み、よく理解した上で本業につながる社会貢献活動を行うことの重要性」を参加者に伝えたいと考えました。

【パネリスト】(順不同)

キリン株式会社 山村 宜之氏、田中 希幸氏
株式会社電通 金子 武洋氏、 舘 憲雄氏
大成建設株式会社環境本部 高橋 工氏、日野 隆氏

【企画責任者】

浅井 恵斗 (早稲田大学1年)

田口 真 (早稲田大学4年)

《講演要旨》 (以下、敬称略 なお、二回の内容を統合して記載してあります)

一企業紹介

＜キリン株式会社＞

キリンは CSV(共通価値の創造:Creating Shared Value)を軸に世の中に対して新たな価値の創出を目指しています。CSV 部門で山村様は環境コミュニケーション、田中様は容器包装 3R とエコ・ファースト推進協議会などの外部団体の窓口を担当しておられます。

＜株式会社電通＞

金子様はパブリックアカウントセンターに、舘様は CSR 部署に所属されています。パブリックアカウントセンターでは官公庁を相手にお仕事をされています。

＜大成建設株式会社環境本部＞

ご経歴と一緒に紹介いただきました。

一 経歴

<キリン株式会社>

山村:

入社後、3年半ほど物流の仕事をしてから営業に移りました。しばらくして阪神大震災が起り、それからの2年は会社の休職制度を利用して、以前よりつながりのあった西宮市の環境教育事業のNPO化に携わっていました。今の環境セクションに移ってからは15年ほどになります。

田中:

1980年に入社しました。人事や営業、監査や広報など様々な仕事を経て、現職についています。営業先も尼崎から札幌まで、全国様々な場所で働いてきました。

<株式会社電通>

館:

マーケティング部門、営業部門および法務部門で経験を積んだのち、めぐり合わせがあり、2014年から環境部門で今の仕事をしています。

金子:

放送局を担当するテレビ局に長い間所属し、多くの番組、企画の立案に協力しました。郵政民営化の一連の流れに携わり、企業の変化を見て、環境のことを考えなければいけないことに気付いてから、今のパブリックセンターに移りました。

<大成建設株式会社環境本部>

高橋:

建設現場からスタートしましたが、屋久島での仕事が自然環境との最初の出会いでした。次の部署で海外からの材料調達を担当し、

信頼関係の重要性や国・地域といった環境の違いを学び、土地により考え方の差異があることを感じました。

環境という視点はあらゆる業務、業種の仕事の中にあります。エコ・ファースト等の活動を通じての部署にいと、他業種の方々と会える機会がある事も一つの大きな特徴だと思います。

日野:

大成建設に就職後、社内の制度でカリフォルニアへ留学しました。そこでアメリカ人の自由な生き方に触れ、やりたいと思うことをやるようにしようと、より強く思うようになりました。帰国後は雨水対策のトンネルなどの公共インフラの設計や海外作業所の勤務を経て、最終的に現職になりました。

浅井:

皆さん、多様な部署を経験されていますね。環境の仕事をするには、それまでに豊富な経験を身に着ける必要があるのですね。

一 実際の社会貢献活動

<キリン株式会社>

山村、田中:

キリンの理念は、価値創造を推進し、企業ブランドの強化を目指す「ブランドを基軸とした経営」を掲げ、その中核にCSVを位置づけています。

CSVとは社会課題の解決と企業の成長との同時実現を目指す経営戦略です。社内で設定した6つのCSVの重点テーマのうち、1つが環境です。キリンの事業は「自然資本」と直結した事業ですので、これに深く関わる環境問題である「生物資源」「水資源」「容器包

装」「地球温暖化」の4つのテーマで取り組んでいます。

午後の紅茶の例を挙げると、キリンは多くの茶葉をスリランカから輸入しています。

紅茶農園を持続可能なものにするための協力を行い、地域の活性化と環境保全、調達先の安定的確保を同時に行っています。

社内には、パッケージ開発の組織があり、容器包装の軽量化など環境負荷を低減しつつ、使いやすい容器包装の開発・設計を行っています。形を工夫することで段ボールカーターの強度を保ちながら、材料使用料を削減しています。

山村：

課題や取り組みを関係する人、知ってほしい人と一緒に取り組んでいきます。

<株式会社電通>

金子、舘：

エコ・ファーストの約束の1つに、「コミュニケーション」という言葉が入っています。これを担うのがまさに電通です。

企業理念は「その手があったか、そこまでやるか、そんなことまで」、コミュニケーションあるところに電通の仕事の種があるのです。

電通では6000社以上の取引先に環境への取り組みを提案する前に、社内での意識統一をはかっています。取り組みとしては、

- 1、グループ会社社員やその家族まで含め、環境スローガンの募集(年間8000件以上の応募)
- 2、社内でのエコ検定受験の推進
- 3、取引先への提案の中で優秀事例の表彰などがあります。

そして、お得意様へCSRの取り組みを提案し、知名度アップのお手伝いを行います。

社内の意識を向上してから業務レベルへ移行する、という流れですね。

<大成建設株式会社環境本部>

高橋、日野：

大成建設には、10年以上続けている環境貢献活動があります。森の中に道路が出来ると、森と共に希少な生き物の生息地も分断されることがあります。そこで、生き物が木の上から道路を渡る事ができる道を作ったり、その為の調査を支援する活動を行ったりしてきました。この活動では、社員とその家族にも参加してもらいます。

近年の傾向として、貢献活動もやはり本業と関係がないと社会から認められないようです。環境貢献活動は環境関連部署が行うことになってきましたが、単なる植林活動や生き物の保護活動だけでは、不十分ではないかと感じる事が多くありますね。

浅井：

本業ありきの社会貢献活動、環境活動というのが大事なですね。

一アンケート回答

浅井：

午前からの参加者の方に、講師の方へ聞きたいことをアンケートで集計しました。

中でも票の多かった、

- ・企業内での環境部門の扱い、立ち位置
 - ・部署の特徴(対社内か対顧客か、業務内容は専門的か、残業は多いかなど)
- を講師の方々に伺いたいと思います。

<キリン株式会社>

山村、田中：

環境部門については、昨年 3 月までは環境推進部が独立してありましたが、4 月から CSR 推進部に統合されました。CSR 推進部の中には他に、震災復興・地域おこしの仕事や乳酸菌の効果など健康に関する仕事などがあります。キリンが考える CSV の重点テーマの「人や社会とのつながりの強化」や「健康の増進」に加えて、環境も同じ部署で進めていくことになりました。

私たちの部署の特徴として、バリューチェーンで取り組みを進めるうえでは、それぞれに係る経験者が集まる部署でもあり、どうしても平均年齢が高くなります。

<株式会社電通>

金子、舘：

1 人 1 人の社員が CSR の意識を持つのが電通の目標です。CSR 推進部はその手伝いをする立ち位置ですね。また、取引先にもそのお手伝いをしています。

<大成建設株式会社環境本部>

高橋、日野：

本社の部署で、関係案件に伴う提案や支援業務が多く、ある程度経験や専門知識が必要なので平均年齢は高いですね。

一就活生へのメッセージ

<キリン株式会社>

山村：

良い加減にやりましょう。良い加減とは、「程よい程度に」ということです。

その業種がやらなければならないことは、他者から見てもわかるもので、そこにきちんと取

り組み情報開示する「妥当性」が大切です。なんでも取り組むのではなく、事業特性によって、持続的に取り組む「良い加減」があることを踏まえていただければと思います。

田中：

消費財をつくる場所なので、お客様からどう思われるかが大事です。ただ環境に優しく、とだけ考えるのではなく、お客様に満足していただくことが必要です。環境の知識はもちろん必要ですが、「環境バカ」になってはいけません。

社会にとっても会社にとっても、社会課題の解決には持続的である必要があります。環境の仕事がしたいなら本業が環境の会社に、環境に良い企業に入りたいなら CSR などに注目をしましょう。自分にとって、何が「環境に良い」なのか見極める必要がある。自分に合う、胸を張れる会社を選ぶことが大切です。

<株式会社電通>

舘：

今ある環境を最大限に利用するという意識を持ちましょう。

金子：

第一志望の企業にいけたら良いですし、行けなくてもその結果いく会社を好きになることです。失敗も自分の人生にプラスになると捉えるのが良い。

入っても環境など希望の部署にいけるかはわかりません。ただ前向きに、諦めずに。

<大成建設株式会社環境本部>

高橋：

どんな会社に入ってもよいと思います。エコ・ファーストの企業はどれも良い企業だと思ひ

ます。
ただ、新卒でいきなり環境分野に配属される
かは、分かりません。その事を忘れないで下
さい。
日野:

大成建設は、結構多様な仕事のやり方を認
めてくれる組織でした。若いうちは色々なこと
に直面しますが、10年一区切りの3回戦ぐら
いの気持ちで、どんどんやりたいことをやっ
て下さい。

【参加者からの声】

- ・企業によって環境へのアプローチの仕方が様々で大変参考になった
- ・最後に、仕事を選ぶに際して、一言ずつ下さった言葉が印象的でした
- ・企業の活動や就活に向けて必要なことを知り、参考になった
- ・それぞれの企業のことが対比して聞けて良かったです
- ・大手企業での環境との関わり方を詳しく話を聞けて良かった
- ・時間配分がうまくなかった

【担当者感想】

今回エコ・ファーストの分科会を担当し、多くの企業の方と話すことができ、また自分が主体的に企業様に企画を提案することができ、非常に勉強になりました。普段所属している環境サークルの活動では多くの場合、学生たちだけで活動しています。しかし今回は分科会に来ていただいたパネリストの方にご協力頂いて動くことができたので、その点が普段と違い楽しかったです。反省も多々ありますが、この経験が今後に活かせるよう反省し、日々精進していきたいと思えます。ありがとうございました。

(浅井 恵斗)

分科会③「基礎からわかる『環境コンサルタント』」

文責:金子 和正

【企画概要】(参加者数 34名)

環境コンサルタントという仕事について知っている学生でも、詳しい仕事内容については知らない人も多いと思われます。そういった人を対象に、環境コンサルタントの仕事内容を知ってもらう企画を用意しました。

講演内容としては、パネリストの方にご自身の経験などのお話を交えて、仕事内容を一から説明していただきました。

【パネリスト】

アマタ株式会社 猪又 陽一氏

国際航業株式会社 小島 泰志氏

【企画担当者】

向江 幸祐(東京農業大学 4年)

金子 和正(慶應義塾大学 1年)

《講演要旨》 (以下敬称略)

一自己紹介

猪又:

大学卒業後、教育関係や法人の立ち上げ、また投資会社など様々な仕事を経験してから、今の仕事に引き抜かれました。

アマタの事業内容としては、企業向けの環境戦略デザイン事業や、地方行政向けの地域デザイン事業があります。

小島:

大学卒業後、住宅メーカーに就職しましたが、やはり環境の仕事がしたいと思って大学院で学びなおしました。卒業後は今の会社で働いています。

国際航業株式会社は元々、航空写真測量をルーツとする会社です。主に空間情報のコンサルティングをやっています。

私がやっているのはエネルギー事業ですが、これはつい最近始まった事業です。

一環境コンサルタントとは

猪又:

コンサルタントの仕事では、誰に何をコンサルしたいのかが重要です。本社の経営企画部にコンサルする場合は、環境戦略を提供する。本社の CSR 部にコンサルする場合には環境マネジメントを支援し、工場等の現場に対しては、廃棄物、省エネなどの専門業務を支援する、というように、対象によってやるものが違うんですね。ここでは、本社の経営企画部に対する支援、CSR 部に対する支援、工場等の現場に対する支援を、それぞれ、Strategy、Solution、Operation と呼びたいと思います。

参加されている学生さんは、環境コンサルというと、どの部分をイメージされておりましたか(挙手を促す)

(結果:Operation での挙手が最多)

小島:

私からは、他の仕事、例えば営業とコンサルを比較したいと思います。〈目的〉、〈主な仕事〉、〈仕事相手〉、また〈求められるスキル〉について、それぞれ違いがありますね。

また、実際には環境コンサルという言葉はあまり使われません。コンサルタントとしての仕事の中に環境を扱う仕事が含まれているという扱いなので、コンサルタントという言葉を使うのが一般的です。

—コンサルタントの意義

猪又:

コンサルタントは社会的価値と経済面を繋ぐ仕事です。環境の仕事は次世代にも残せる、胸を張れる仕事だと思っています。

小島:

スケールの大きさでしょうか。周囲の人との協

力による仕事の、難しさや面白さに意義を感じています。

—就活性へメッセージ

猪又:

真面目にコツコツと物事を進めることができる性格の人がコンサルタントには向いているでしょう。天職という言葉がありますが、最初から天職に就く人は少なく、仕事を続けるうちに、続いた仕事为天職になっていくのだと思います。

小島:

就活するうえで、会社の本業を見極めること、そして周囲との協力関係が大事です。周囲の人を大切に、謙虚な気持ちを忘れないで下さい。

【参加者の声(抜粋)】

- ・環境コンサルタントのお仕事にはいろいろなターゲットがあつて、自分は誰にどのようなコンサルをしたいのか考えるのが大切だと思いました。
- ・今まで知らなかった環境コンサルタントについて興味が湧く内容で、これからの就活の視野が広がりました。
- ・環境コンサルタントの仕事は、専門的な知識が必要だと思っていたが、自分がやりたいことをしっかり持っていれば大丈夫なのかなと感じました。
- ・(環境)コンサルタントについて理解を深めることができた。パネリストの方が社会経験が豊富な方で、お話が面白かったです。

【担当者感想】

今回、私が環境コンサルタントの分科会の企画を提案した経緯は、私が環境コンサルタントの仕事に興味を持っていたからです。初めは環境コンサルタントの仕事を理解しているつもりでした。しかし、社会人の方からお話を聞いたり、自分で調べたりしたことで、私が理解していることは、お仕事の一部に過ぎないということが分かりました。そして参加者の方々にもこの仕事について理解してほしいと思い、この分科会を企画しました。

スタッフをやらせていただいたことで、打ち合わせで講演者のお二人のお仕事について詳しく聞かせていただいたりと、多くのことを学ぶことができました。この相談会に関わっていただいたすべての方に感謝申し上げます。

(向江幸祐)

私は、パネリストの方との打ち合わせの段階からこの分科会の企画に関わらせてもらって、もちろんコンサルタントのお仕事について理解が深まりましたし、企画の仕方も学ばせていただきました。特に、パネリストのお二人との打ち合わせの中で、どのような質問をするべきなのか、とか、伺った話をどのようにまとめているかといったことを見させてもらい、大変勉強になりました。

また、当日は司会をさせていただき、ある程度の人数の前でしゃべるという、非常に貴重な経験もさせていただきました。

今回このような機会が得られたのは、ご協力いただいたパネリストの方や、アドバイスしていただいた他のスタッフの方たちのおかげです。本当にありがとうございました。

(金子和正)

4. アンケート結果等分析

A. 広報について

【告知規模について】

エコ・リーグのHP、環境サークルや環境に関連した学科・研究室のメーリングリスト、Facebook を利用して告知を行いました。告知規模は以下の通りです。

環境関連授業、大学研究室、サークルへのメーリングリストによる告知が 300 団体程度。

Facebook のイベントページによる招待が 310 名程度です。

B. 事前申込者、参加者分析

B1. 当日参加者及び参加者アンケート分析（当日参加者 109 名）

【参加者出身】

単独開催ということもあり、関東圏の学生が大半を占めました。一方で、愛知県や長野県、また関西圏など遠方からの参加者も見られます。

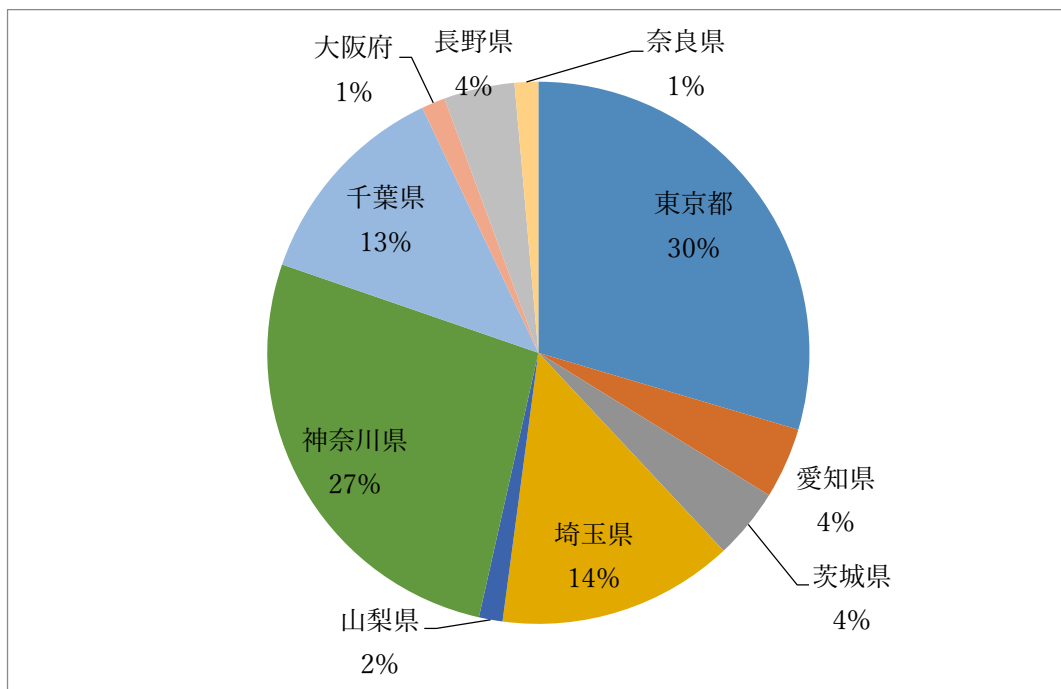


図 1 参加者分布(出身)

【参加者所属大学・学年】

こちらも関東圏の大学が大半を占めました。学年も例年通り、就職活動を行っている学部3年生および大学院1年生が80%を占めています。一方で、学部1,2年生も一定数参加がありました。

表 1: 主な参加者所属大学

大学名	参加人数
茨城大学	2
横浜国立大学	2
慶應義塾大学	3
国士舘大学	2
城西国際大学	3
信州大学	5
千葉商科大学	2
早稲田大学	3
大妻女子大学	4
東海大学	2
東京都市大学	4
東京農業大学	6
東京農工大学	2
東京農工大学院	2
東邦大学	6
東邦大学大学院	2
名城大学	3
明治大学	3
その他	15

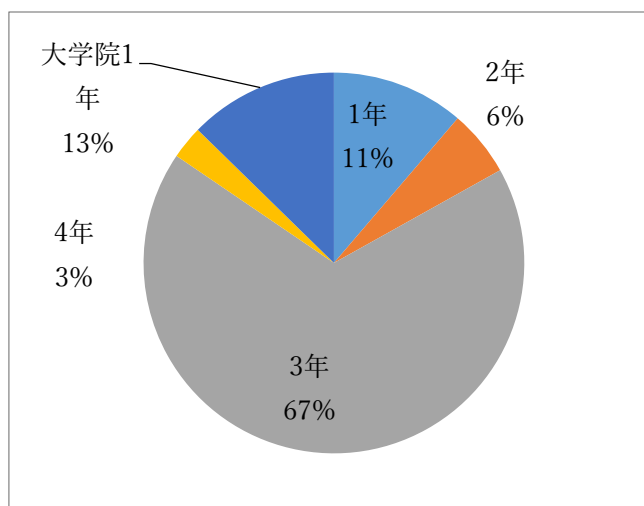


図 2 参加者の学年層

【イベントを知ったきっかけ】

昨年まではエコプロダクツ HP がきっかけとして最も多くを占めていましたが、単独開催となった今年度は、広報において最も力を入れた「研究室・ゼミからの紹介」が最多となりました。

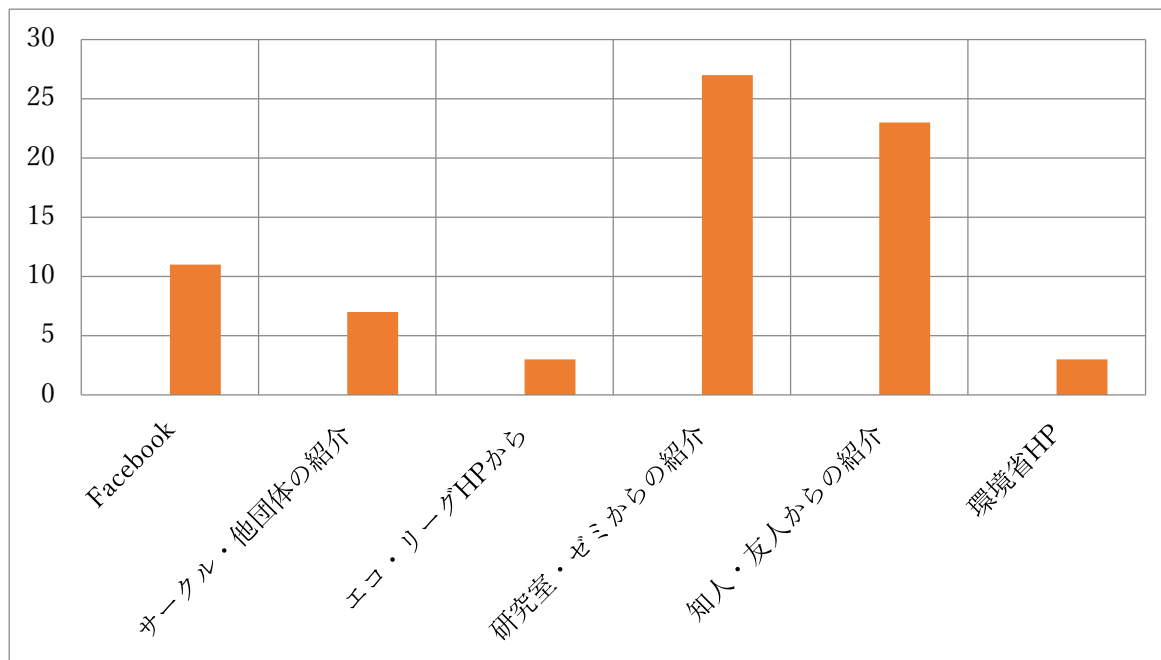


図3 イベントを知ったきっかけ

C.メディア掲載

開催にあたって、以下のメディアに本イベントを取り上げていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

[みんな電力株式会社]

<http://corp.minden.co.jp/archives/1349>

[オルタナ S]

<http://alternas.jp/joy/date/62615>

[Yahoo! ニュース]

<http://zasshi.news.yahoo.co.jp/article?a=20160219-00010000-alterna-soci>



実行委員長

永瀬 萌（早稲田大学創造理工学部 3年）

実行委員

<学生スタッフ>

胡桃 茅里（法政大学キャリアデザイン学部 4年）【個別相談会】

田口 真（早稲田大学先進理工学部 4年）【広報】

向江 幸祐（東京農業大学地域環境科学部 4年）【分科会③】

千賀 太喜（早稲田大学創造理工学部 3年）【シンポジウム】

金子 和正（慶應義塾大学経済学部 2年）【分科会③】

浅井 恵斗（早稲田大学創造理工学部 1年）【分科会①, ②】

<社会人スタッフ>

金子 浩司

三澤 あい

平佐 賢宗

帆足 正樹

エコ・リーグ代表理事

崎浜 公之

エコ・リーグ担当理事

大谷 広樹

Special thanks to...

みんな電力株式会社

カウンセラー、パネリストの皆様

「環境」就職・進路相談会 2016 実施報告書

発行者：特定非営利活動法人エコ・リーグ 「環境」就職・進路相談会実行委員会

発行日：2016年5月28日